



カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852-8113
長崎市上野町10-34
カトリックセンター内
Tel. 095-843-3869
Fax 095-843-3417
振替口座 01880-5-2699
発行人
大 水 文 隆
印刷所
株式会社 藤木博英社

教皇さまの意向

- ・一般 互いの理解のために、対話から始めることができるように教会の司牧者が、深い愛情をもって共に歩めるように死者のための祈りが、復活の信仰の証しとなるように
- ・宣教
- ・日本

大司教、提言をよく読むことを要望 カテキスタ養成を優先課題に



7月5日(日)に予定され、台風のため延期されていた第1回教区シノドス提言推進会議が、9月13日(日)に開催された。

議員の時間的負担の軽減と交通費節約のため、大司教館(写真)・相浦教会・青方教会・福江教会をテレビ会議システムで結んで行われた推進会議。当日、下五島地区の被爆・戦後70周年記念行事(3面に記事掲載)で講話を行うため、福江教会を訪問中の高見三明大司教も、同教会から参加した。

はじめに、推進会議で取り扱う議題を準備する教区シノドス提言推進会議中央委員会(山脇守委員長)から、推進会議の次の3つの役割について説明があった。

①全教区を挙げて、焦らず、着実に、祈りのうちに実施し、よい実りをもたらすことができる

②個人、共同体(家庭・修道院・班など)、小教区、地区、教区、諸委員会、司祭団、関連団体などで取り組むことを調整し、実施状況を確認、必要であれば指導を行う。

③初年度は、基本計画や優先課題を検討する。

続いて審議に入り、中央委員会が提出した「公式提言推進の全体像と基本計画」および「公式提言を推進するための目標および優先課題(案)」について検討し、活発な意見が交わされた。結論として、カテキスタの養成を優先課題とするという認識が共有されたが、全体像の提示や基本計画については、今回出された意見をもとに、中央委員会が次回会議に再提出することとなった。

第1回会議を終えて、高見大司教からは「提言には、個人や家庭で取り組むものも多く含まれているので、まずは提言をよく読むことから始めてほしい」との要望が寄せられた。次回は11月23日(月)を予定。

神と人を愛することが証し

中町で聖トマス西と十五殉教者祭

9月27日(日)中町教会で、聖トマス西と十五殉教者祭が、長崎各地から訪れた信者約500人と共に行われた。長崎教区主催、長崎南地区評議会運営。

ミサに先立ち、今年3月に完成したばかりの殉教者記念庭園中央にある記念碑に、高見三明大司教が献花(写真)。参列者と共に「聖トマス西と十五殉教者の玄義による

9月27日(日)中町教会で、聖トマス西と十五殉教者祭が、長崎各地から訪れた信者約500人と共に行われた。長崎教区主催、長崎南地区評議会運営。

ミサに先立ち、今年3月に完成したばかりの殉教者記念庭園中央にある記念碑に、高見三明大司教が献花(写真)。参列者と共に「聖トマス西と十五殉教者の玄義による



園で祈る人の姿が多く見られた。

高見大司教は「自分を愛することが愛。この愛を完璧に生きていることが聖なること。それで殉教者は聖人となる。聖なる人は愛する人」と語り、「私たちは常に、神様を愛し、人を愛さなければならぬ。それが神様を証しすることになる」と説教した。

ミサ後も、記念庭

福島にもつと関心を

原発事故避難者の現状を講演

9月12日(土)カトリッククセセンターにおいて、「福島原発事故避難者の現在―未来と希望はどこに

あるか」をテーマに講演会が開催された。東日本大震災の被災者と福島原発事故による避難者を支える活動を続けているボランティアグループ「きら星ネットワーク」主催、教区評議会女性部協力。

講師を務めた信木美穂さん(きら星ネットワーク・統括コーディネーター)は、福島原発の事故当時の様子、現在までの避難状況、きら星ネットワークの活動である避難者相談・学習支援・交流

活動・保養プログラムなどを、映像を交えながら紹介。「福島の避難者の大きな苦しみは、避難しても帰還しても非難されること」と述べ、「どう支援するかではなく、福島の問題を知って伝えてほしい。短期の支援ではなく長期にわたって関わり続け、関心を持ち続けてほしい」と講演を締めくくった。

「日々の生活の中で、いろいろ悩み事が出てきたとき、これを聞きなさい。その答えが全てこの中にあります。」成人の日のミサの後、4人の若者を前に聖書をプレゼントとして手渡ししながら、司祭が言ったことばです。

また、黙想ノートの始めには、「わたしたちには神がいます。人生の歩み方とその意味を愛といつくしみ深さによって教え諭すお方です。その方と共にわたしたちはそれぞれの人生を歩みます」とあります。

黙想ノート―私の使い方③

教区評議会議長 黒崎勝郎

教区シノドス提言を受けることとなり、一日が終わる、床に就く前には黙想ノートを開く、これを実行に移して5ヵ月が経過しました。

あわただしく過ぎていく一日の中で、このノートの空欄には「疲れた、何もなし」が続き、みことばを選んだ箇所は「満腹」「朽ちる」「飼いの羊」「つぶやき合

く一日の中で、このノートの空欄には「疲れた、何もなし」が続き、みことばを選んだ箇所は「満腹」「朽ちる」「飼いの羊」「つぶやき合

「聖書と祈りを一つにしない羊」「つぶやき合

「聖書と祈りを一つにしない羊」「つぶやき合

「聖書と祈りを一つにしない羊」「つぶやき合

「聖書と祈りを一つにしない羊」「つぶやき合

「聖書と祈りを一つにしない羊」「つぶやき合

「聖書と祈りを一つにしない羊」「つぶやき合

「聖書と祈りを一つにしない羊」「つぶやき合

「聖書と祈りを一つにしない羊」「つぶやき合

教区顧問会 教会の維持・小教区再編を考える

う概算見積を再提出し、その後再審議するという結論となった。

続いて、教会群の世界遺産承認を見据え、教区として以下のように対応していくことが承認された。

①商業用の写真撮影(雑誌やパンフレットなど)に関しては、教会内部の撮影は禁止。教区所有の写真を有償で貸し出す。

②広く一般から教会保全のための寄付を受け入れるための寄付を受け入

れるため、「長崎の教会を後世につなぐ基金」を開設する。

③大改修あるいは補修を自力ではできない教会のために「教会保全基金」を開設し、教会保全のための積み立てを行う。

小教区再編成については、教区シノドスへの提言案として顧問会が提出したものであるが、教区本部事務局会議で作成される素案をもとに、各地区でも議論していくことが承認された。

『カトリック教報』(よきおとずれ)では、2012年10月に開年した信仰年を機に、特集・連載を企画し、長崎教区内外の方々に寄稿していただいた。それぞれの霊性に基づく体験・神学・歴史の分かち合いは、「神の使者である。時」(福者ピエール・ファールヴル言葉)を迎えた教会共同体に、豊かな示唆を与えてくれた▲時の出来事は神からの問い掛けであり、応えて生きて人生は紡がれていく。教区広報委員会は、一連の特集がうたかたの夢ではなく、明日への助言となることを信じて、『拾い集めたら』信仰年から日本の信徒発見150周年へ」として編さんした。古き良き時代を懐古するためではなく、記念して光と出会いは、共に歩み出すためである。教区内の小教区と修道会への案内後、1ヵ月余りで約2000部を購入いただいた▲教会共同体の苦悩と課題、絞り出された知恵と捧げられた祈りを束ねた教区シノドス。そこから生まれた『教区シノドス提言』は、「わたし」から始まる回心と、共同体に居場所を見いだせない兄弟姉妹への配慮、信仰の伝達と宣教にもつと目を向けるように招いている。理屈をこねるときは終わった。大切なことは、あと一つだけ▲左の手にさえ知られることを恥じらう長崎の教会の信仰を「拾い集めたら」使者への応えが見えてくる。新たな旅はすでに始まっている。(F・O)

ほしかげ

2015年11月29日(待降節第1主日)から適用 新しい総則に基づく ミサの典礼の一部変更

日本カトリック神学院 白浜 満

産みの苦しみ

現在、日本の教会で使用中的日本語版『ミサ典礼書』(初版)は、教皇庁典礼秘跡省から1975年に公布されたラテン語規範版(第二版)を、日本の教会のために翻訳・適応して1978年に出版されたものでした。その際に、典礼秘跡省は10年という期限付きの暫定認可を与え、その間に日本語の最終版(改訂版)を準備するよう、日本の教会に要請していました。ラテン語規範版全体がまだ翻訳されていなかったためです。しかし、日本の教会事情として、それ以降も並行して他の儀式書の翻訳作業などを進めなければならず、諸般の事情から日本語版『ミサ典礼書』の最終認可を得るための改訂作業は大幅に遅れていました。

本格的に改訂作業に着手したのは2000年になってからですが、その後、間もなく(2002年3月)、典礼秘跡省はラテン語規範版(第三版)を公布しました。そのため、日本だけでなく世界の教会は、第三版(2002年)に基づく新しい翻訳・適応の作業に取り組まなければならなくなりました。日本の教会は、1978年から使用してきた日本語版『ミサ典礼書』(初版)の改訂作業を衣替えして、ラテン語規範版(第三版)の翻訳・適応の作業を進めてきました。ようやくその作業も終盤を迎えて、中心部分となる新しい(第三版の)「ミサの総則」と「ミサの式次第」を典礼秘跡省に何度か提出し、ようやく昨年5月に「ミサの総則」だけが先に認証されました。新しい「ミサの式次第」の方は、典礼秘跡省からいくつかの修正が求められ、認証にはまだ時間がかかっています。

今回は動作のみの変更

日本の教会では、認証された新しいミサの総則に早めに慣れるため、「ミサの式次第」は現行のものを用いながら、11月29日の待降節第1主日から、ミサの動作(所作)のみに関して変更が導入されることになり

ました。この変更箇所的大部分は、ミサの司式や奉仕に携わる司祭・助祭・奉仕者に関連するものですが、会衆全体に関わる動作の変更もいくらか含まれています。紙面の都合上、ここでは会衆全体に関わる動作の部分、ミサの流れに沿って説明したいと思います。

今回の新しいミサの総則に基づく動作の変更箇所の説明のため、日本カトリック司教協議会は、6月に「新しい「ローマ・ミサ典礼書」の総則」に基づく変更箇所——2015年11月29日(待降節第1主日)からの実施に向けて(カトリック中央協議会)という小冊子を発行していますので、詳しくはこれを参照していただきたいと思っています。

ミサ全体に関する姿勢

まず、「日本の適応として、ミサの中では立つことと座ることを基本的な姿勢とし、す(新総則43)」ので、ひざまずく動作は、ミサの中では行いません。ただし、「立つことが定められている場合でも、健康上の理由や他の重大な理由がある場合は座ることができ、す(新総則43)」。日本ではひざまずき台がない教会も増えてきていますので、基本的には「立つ」「座る」の2つの姿勢でミサが進められていきます。「立つ」姿勢には「主を迎える、敬意をもつて聞く、信仰告白、ともにささげる(祈る)、派遣される」などの意味があります。一方、「座る」姿勢には聞く、黙想する、準備する、味わうなどの意味が込められています。

開祭

ミサのはじめに、「司祭によるあいさつ」のことは、司祭あるいは助祭だけでなく、信徒の奉仕者も「非常に短いことばで、信者をその日のミサに導入するこ

と(新総則50)ができるようになりました。また、「栄光の賛歌」の歌い出しは、「司祭」はもちろんのこと、「適当であれば先唱者か聖歌隊(新総則53)が行うこともできるようにになりました。

ことばの典礼

「会衆の参加するミサの祭儀では、朗読はつねに朗読台から(新総則58)行います。また、この朗読台から、復活賛歌や答唱詩編を歌ったり、共同祈願の意向を唱えたりする(新総則309)ことができるが、解説やお知らせを行うことはふさわしくありません。

答唱詩編はできれば全体、少なくとも答唱は歌うことが勧められています(新総則61)。本来、答唱詩編は歌う性格のものだからです。第1と第2朗読、そして説教が終わってから、日本の教会では、沈黙のひとときを取ります。神のことばの黙想を促すためです。

アレルヤ唱(詠唱)については、会衆用の聖歌集やパンフレットが手元にならない場合もあり、唱句を聞いてよく味わうために、最初と最後の「アレルヤ」のみを会衆が歌い、その間にある唱句(詠唱)は、聖歌隊あるいは先唱者によって歌うことが勧められています。ただし、日本の教会では、少人数でミサがささげられ、聖歌隊や先唱者がいないことも多いため、これまでの通り、アレル

ヤも唱句(詠唱)も全体を歌うか唱えることができるように適応しています(新総則62)。

今回、福音朗読前に、一同は(〇〇〇)による福音(の後)「主に栄光」と唱えながら、自分の額と口と胸に十字架のしるしをすることになりました(新総則134)。福音を朗読するのは、助祭の固有の務めとされてきましたが、この十字架のしるしの意味を考へるために、助祭叙階の際、司教が新助祭に福音書を授けるとき、言葉が、その理解の一つの助けになります。——「キリストの福音を受けなさい。あなたはこの福音を告げる者となりました。読んだことを信じ、信じたことを教え、教えたことを実行するようにしてください。」——わたしたちは朗読を通して「聞いたことを信じ(額に十字架)」「信じたことを教え(口に十字架)」「教えたことを実行する(胸に十字架)」ことができるよう、心の中で個人的に祈りながら、これらの十字架のしるしを丁寧に行うように心がけたいと思います。みことばは、人間のからだによつて、すなわち生活の中で生きられるとくに、多くの実を結びます。

感謝の典礼

奉納のときに、一同は着席します(新

総則139)。しばしば、信徒の奉仕者(代表者)が、パンとぶどう酒を司祭に奉納するまで一同は立っている光景を目にしますが、一同は最初から着席したままです。奉納は準備段階であつてそのときに立っているより、「皆さん、このささげものを全能の神である父が受け入れてくださるよう祈りましょう」という司祭の招きに答えて立ち上がり、奉納祈願そしてそれに続くミサの中心的な祈りである奉獻文を、司祭とともに(ともに立って祈る)ということのほうに、「キリストとともに自分自身をささげる」という意味が込められているからです。

閉祭

閉祭の部分では、会衆に関連する変更箇所は特にありません。

今回は、会衆全体に関わる説明しか行うことができませんでしたが、主任司祭を通して、各小教区において、ミサの司式や奉仕に携わる司祭・助祭・奉仕者(侍者)の動作(所作)に関する変更箇所や、その意味を学ぶ機会が設けられることを願っています。

秋の司祭研修会

人権・結婚手続き・典礼を学ぶ



秋葉悦子氏

年に2回開催される司祭研修会の秋の研修会が10月6日(火)と7日(水)、大司教館で行われた。

1日目前半は、富山大学教授・教皇庁生命アカ

デミー客員会員である秋葉悦子氏が、「人権の尊厳と人

権の尊重」のテーマで講演。1960年代の安楽死合法化、90年代のヒト胚研究の合法化など、人格の尊厳をおびやかす出来事と倫理学はどのような向き合ってきたかを語った。また、教皇ヨハネ・パウロ2世の回勅「いのちの福音」を例に、教会は常に、人格の尊厳と人権の尊重に主導的役割を果たしてきたことを確認した。



葛嶋秀信氏

後半は、今年カトリック中央協議会から発行された「司牧に関する法規の手引き」の中の結婚に

関する実務(結婚の準備、挙式の手続き、挙式後の手続きと配慮、結婚の絆の解消、結婚の有効化)を葛嶋秀信氏が説明。司牧の現場で生じる疑問にもていねいに答えた。「いつくしみの特別聖年」に合わせて、教皇フランシスコが発表した自発教令「寛容な裁判官、主イエ



白浜 満氏

備、ミサ全体に関して、開祭・ことばの典礼・感謝の典礼・閉祭の各部を、具体的な仕草や写真で示

2012-15年「カトリック教報」の特集を1冊に『拾い集めたら——信仰年から日本の信徒発見150周年へ』

- ◆ 500円(送料込/振込手数料別) A5判 300頁
- ◆ 申込は氏名・送付先・電話番号・部数を明記の上、FAXかメールで(カトリックセンター2階・広報でも販売)
- ◆【申込先】教区広報委員会 FAX 095-843-3417 メール nkoho@nagasaki.catholic.jp

第51回セブ島世界聖体大会日本公式巡礼団ツアー
2016年1/23から10日間・1/27から6日間
アジアの国で開催される聖体大会です。全国の神父・信徒様とアジアの一員として公式プログラムに参加してみませんか？
資料請求・問い合わせ先
大阪急交通社 福岡団体支店
〒810-8589 福岡市中央区渡辺通2-1-82 電気ビル共創館12F
TEL 092-761-8833 FAX 092-761-8666
E-MAIL takeichi@hei.hankyu.co.jp 担当: 宮原・武市・牛島

飽ノ浦教会 墓地分譲

場所:長崎市大谷町262-1 ガーデンテラス長崎ホテル隣接
眼下に長崎の港と町並みを見渡す明るい丘

飽ノ浦教会在籍者総額150万円・小教区外総額160万円

- 永代使用権付き墓地 ● 占有面積は 間口 1.6m 奥行 1.5m
- 墓地内祭壇(約40m)で年2回合同追悼ミサをささげます。



連絡先:カトリック飽ノ浦教会墓地管理委員会
TEL 095-861-7714 (辻 末人)

販売残りわずかです。詳細についてはご遠慮なくお尋ねください。



下五島地区が研修会

と世界各地の紛争の終結、世界平和を願うために



被爆・戦後70年を迎えた今年、長崎教区は地区ごとに集い、平和の実現に向けて働く決意を新たにしようとしている。下五島地区評議会は9月13日(日) 福江教会で研修会を開催、約400人が平和学習を行った。第1部では被爆マリア像の前に、戦没者の安息

を祈る。司教団メッセージを解説した高見三司教は、「すべての人の平和のために、排除ではなく、根気強い対話が必要」と強調し、宗教や宗派を超えた協力を訴えた。また、教会が分裂の傷を持ちながら平和を口にするのは矛盾につながるとして、共同体の回心についても触れた。

安保関連法案、紛争、難民などの問題を前に、「剣を持つ者は剣で滅びる」ことの認識と、一人一人があらためて平和の使徒となることを誓う研修会となった。

カリタス大槌ベースボランティア募集

- 12月10日(木)～16日(木) (11/25 締切)
 - 1月14日(木)～20日(木) (12/23 締切)
 - 2月11日(木)～17日(木) (1/27 締切)
 - 3月10日(木)～16日(木) (2/24 締切)
- 申し込みは所属小教区へ。問い合わせは教区本部事務局(松尾)まで。
Tel 095-842-4450 Fax 095-842-4460

十字架山殉教祭

新たな旅を続ける思いで

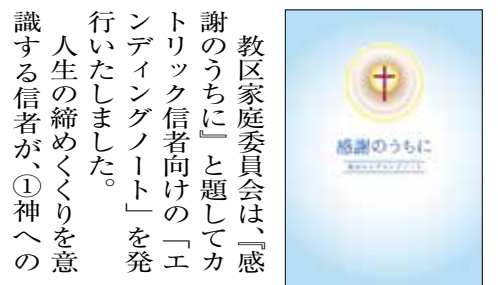
9月13日(日) 長崎市 辻町の十字架山で殉教祭が行われた。当日は、教区評議会役員会、教区シノドス提言推進会議、研修会、敬老会など、多くの行事が重なっていたにもかかわらず、150人余が集い、祈りをささげた。ミサを主司式した浦上小教区主任の久志利津男師(写真)は説教の中で、



終わりに、2年後の2017年には「浦上四番崩れ」「旅」から150年を迎えることに触れ、「私たちは旅人であり、教会共同体は旅の同伴者である」と見るときに、また新たな旅を続ける準備にしようと呼び掛けた。

『感謝のうちに』発行

信者向けのエンディングノート



教区家庭委員会は、『感謝のうちに』と題してカトリック信者向けの「エンディングノート」を発行いたしました。人生の締めくくりを意図する信者が、①神への

感謝のうちに』と題してカトリック信者向けの「エンディングノート」を発行いたしました。人生の締めくくりを意図する信者が、①神への

長崎神学校創立150周年 記念ミサと祝賀会のご案内
◆ 記念ミサ 12月20日(日)16時 浦上教会
◆ 祝賀会(要申込) ミサ終了後 信徒会館
申込 氏名・連絡先・電話番号・人数を明記し、下記へ申込
締切 11月15日(日)

《問合せ・祝賀会申込》
長崎カトリック神学院
〒852-8114 長崎市橋口町10番7号
Tel 095-844-1096 Fax 095-840-0750
メール catholicseminary@yahoo.co.jp
院長 眞浦健吾

司祭不在の軍艦島で 信仰を支えたコンフラリア(3)



1961(昭和36)年夏、総合事務所内に突如サイレンが鳴り響いた。150回線の電話交換機の赤ランプが一斉に点灯、坑内事故だ。事務所内は臨戦態勢、「人手が足りない、木場田も救護を手伝ってくれ。」10人の作業員と坑内に急いだ。切羽と呼ばれる最先端の採掘現場に到着するまで片道1時間余り。焦る気持ちを抑えながら事故現場に到着すると、現場責任者は無言のまま首を横に振った。トロッコ人車との接触事故だった。当時、作業員が亡くなると、魂は坑内に留まって禍のもとだと言われ、この男はカトリック信者だ。皆で祈ろう。



軍艦島は一つの都市としての機能が合ったといえ、火葬場と墓場はなかった。そのため

霊安室は病院に隣接して2カ所あり、その中の一つは壁に赤レンガで大きな十字架がデザインされていた(写真11984年撮影)。「炭鉱誌」に、キリスト教、天理教の作業員が増加するに従い、軍艦島で犯罪が減少したと記されている。そのためカトリック系の作業員に敬意を表するため、三菱は十字架をあしらった霊安室を造ったといわれている。霊安室はとつても狭く、3畳ほどの部屋。そのため

数人が代わる代わる通夜が始まるまでロザリオを唱えた。そこにはキリスト像、マリア像も置かれ、玄義に代えて次の祈りを唱えた。「いと甘美なるイエズスよ、わが裁き手となり給え。わが救い手となり給え。甘美なるマリアの御心、わが救い手となり給え」通夜と葬儀は宗派に関係なくお寺で行うのが慣例で、お寺はどの宗教も受け入れていたのだ。繁栄を極めた軍艦島の裏には、日本人だけでなく215人の尊い労働者の犠牲があったことも心に留めてほしい。そしてコンフラリアの活動で、多くの霊魂が救いの手にあずかったことも……。故人となられた人たちのご冥福をお祈りしながら、連載を終わる。

神ノ島教会 木場田友次
*写真は長崎三菱造船所の許可を得て撮影

カミロ・コンスタンツォ殉教祭

信仰の記憶を次世代に語り伝えよう

9月20日(日) 平戸市の焼罪史跡公園で、福者カミロ・コンスタンツォ殉教祭が行われ、約300人が参列した。説教のはじめに高見三

明大司教は、カミロ神父の宣教への熱意と炎の中で最後まで神を誉めたたたえた殉教の様子を紹介し、その模範に倣うよう呼び掛けた。「死んでしまえば終わり」と言う人もいるがそうではない。殉教は、自分に死んでまで神をたたえること。司祭や修道者も自分に死な



なればなりません。その意味では殉教と同じことです。」また、家庭をテーマに10月4日からローマで開催される司教シノドスにも言及。信仰を家族で伝え合うことの大切さを説き、このような殉教祭によって、信仰の記憶を次の世代に語り伝えていこうと語った。

秋の公開聖書講座

出エジプト記を学ぶ



9月27日(日)カトリックセンターにおいて、教区生涯養成委員会(谷脇誠一郎委員長)主催による秋の公開聖書講座が「出エジプト記——真の

神に仕えるために」のテーマで行われた。講師に聖パウロ修道会約120人が参加した。澤田師はまず出エジプト記の概要を述べ、人類の創造の時から始まった神の救いの計画について説明した。その後、神ご自身が表された「神の名」「イスラエルの民と結ばれた「契約」「民が生き生きと神に仕えるための指針として与えた「律法」に焦点を当てて解説し、次のようにまとめた。「神がイスラエルの民と結ばれた契約は、神が

人と共にあつて救いたいとの一方的な契約です。私たちが神から離れようとも、神は「きのうも今日も、また永遠に」(ヘブライ13・8)この契約を変えられることはありません。キリストによって完成されたこの契約のゆえに、神は、私たちが神にふさわしく生きるための指針として聖書を注ぎ、導いてくださるのです。」参加者の一人は「永遠に変わることはない神の契約」とのことばに力を感じた。出エジプト記を今日のお話をもとにもう一度読み返したい」と語った。

神に仕えるために」のテーマで行われた。講師に聖パウロ修道会約120人が参加した。澤田師はまず出エジプト記の概要を述べ、人類の創造の時から始まった神の救いの計画について説明した。その後、神ご自身が表された「神の名」「イスラエルの民と結ばれた「契約」「民が生き生きと神に仕えるための指針として与えた「律法」に焦点を当てて解説し、次のようにまとめた。「神がイスラエルの民と結ばれた契約は、神が

人と共にあつて救いたいとの一方的な契約です。私たちが神から離れようとも、神は「きのうも今日も、また永遠に」(ヘブライ13・8)この契約を変えられることはありません。キリストによって完成されたこの契約のゆえに、神は、私たちが神にふさわしく生きるための指針として聖書を注ぎ、導いてくださるのです。」参加者の一人は「永遠に変わることはない神の契約」とのことばに力を感じた。出エジプト記を今日のお話をもとにもう一度読み返したい」と語った。

ぶどう園

純心学園「千羽鶴の旅」

創立80周年に刻む平和交流



大聖堂は、1955年11月、山口愛次郎司教様当時、が浦上天堂再建のための寄付を願うために訪問し、ミサをささげた教会でもある。

「純女学徒隊」として原爆により命を捧げた生徒たちの平和への願いと祈りを継承し、世界の人々と共有することは、学園の使命であり責任でもある。何よりも「千羽鶴」や「燦祭の歌」(永井隆作詞、木野普見雄作曲)の歌を捧げる機会をいただくことは光栄なことである。

アメリカの中でも、セントポール市とミネアポリス市の双子都市近郊は、平和への意識が高い地域で、80年代から市内にリンデル平和公園を整備している。被爆70年に当たり、セントポール市中心部にあるランドマークセンターでは、8

戦後・被爆70年の節目の年に、純心女子学園は第4回千羽鶴の旅を15人の学生・生徒で実施し、セントポール市(アメリカ・ミネソタ州)の平和交流に出席した。

8月6日広島原爆祈念の集い、8月8日夕刻7時(長崎の原爆投下とほぼ同時刻)長崎原爆祈念の集い、現地の8月9日は、セントポール大聖堂での日曜日のミサに出席して歌を捧げた(写真)。今年は特に多くの参加者

があり、関心の高さを伺わせた。同

公開典礼講座 ミサの一部変更について

新しい「ローマ・ミサ典礼書の総則」に基づき、待降節第1主日(11月29日)からミサの一部が変更されます

日時 11/15(日)12時半～16時
場所 カトリックセンター
講師 白浜 満師(大神学院院長)
参加費 500円
申込先 教区生涯養成委員会
教会に配布されている「申込書」でお申し込みください
主催 教区典礼委員会

ホームレス支援講演

貧しい人の中に見る神からの力



「こと」という演題で、約180人の参加者に講演をしていただいた。

本田師は大阪・釜ヶ崎で19年間、ホームレス支援を続けられ、今も毎日、10人から30人の人たちの散髪をしながら、彼らの失業対策活動にも従事されている。師はカトリックの家に育ち、幼少より良い子症候群の範疇に居続けたが、釜ヶ崎で初めて夜回りに参加して、内心の恐れと緊張を隠し、あるホームレスにおずおずと毛布を差し出したとき、「兄ちゃん、すまんなあ、おおきに」と返ってきた一言に、思いもよらなかった心の開放を味

「長崎ホームレスを支援する会」主催により、10月3日(土)長崎原爆資料館において、フランシスコ会の本田哲郎師(写真)を講師に迎え、「いま、私たちが大切にしたいこと」

わい、目を覚まされた思いがしたという。そして「弱い立場にいる人たちが、よく真実を見ている」と付言された。師は教皇庁聖書研究所を卒業し、今も日雇いの労働者に学びつつ聖書を読み直されて、「貧しい人は幸いである」とは、「心底貧しくされた人たちにこそ神からの力がある」と語った。これなら私にも胸に落ちる思いがする。現在当会では、生活困窮の方々へも支援の輪を広げている。皆さまの参加を心からお待ちしています。(問合せ 080・2714・8574)

★理想的指導者像を求めて
著者 山内清海
アブラハム、モーセ、イザヤ、ペトロ。彼らが真の指導者たり得たのは、「十字架を生きた」からである。神と民の間にあって、苦悩しながらも一途に奉仕する人々。彼らの姿は、現代に生きる指導者たちへの問い掛けであり、私たちの希望でもある。

Love to Learn and Learn to Love

どなたでもご参加いただけます

第36回 聖マリア学院 音楽祭

とき 平成27年11月21日(土) 9:30~11:25 音楽祭 11:40~12:20 学校説明会

ところ 聖マリア学院体育館 聖マリア学院小学校校舎

一人ひとりのいのちの輝きを大切に HPをチェック! 聖マリア学院

司祭団ソフトボール大会

9月29日(火)司祭団ソフトボール大会が、新上五島町の有川多目的グラウンドで開催された。今年長崎北・中・南地区、

選んだのです。読み進むうちに、姉の声を覚えてきました。読むことをやめませんでした。この詩編の最後はこうです。

わたしは信じます
命あるものの地で
主の恵みを見ることを。
主を待ち望め
雄々しくあれ、心を強くせよ。
主を待ち望め。

私が、言いたくても言えなかったことを聖書がはっきりと教えてくれました。亡くなった時、姉の聖書には27編のところ



カカロ
濱口吉隆神父
(神言修道会)

9月10日午前3時37分、名古屋市内の病院で逝去。69歳。
1946年1月20日、長崎県五島市生まれ。68



大会終了後には各賞の発表と表彰が行われた。恒例の新人賞やフェアインプレー賞などもあったが、ホームランラインを70mに設定したのが響いたのか、ホームラン賞に輝いた司祭は出なかった。

結果は以下の通り。優勝 長崎3地区(写真)、準優勝 佐世保・平戸地区、第3位 上五島・下五島地区。

「五島の信仰あつた家庭に生まれた神父様は長年養成教育などに携わり、脳梗塞がもとで車いす生活になってからも、昨年3月までずっと大学で指導をなさっていました。自分のできることは自分です、周りの人にもいつかも明るく接しておられました」と故人をしのんだ。

みことばにふれて 122 Sr. 下窄優美 (お告げのマリア修道会)



今年もまた大切な人たちが何人か天国に見送りました。特に共に生活していた若いシスター、そして一番年の近い姉。

肉親である姉については、神様のもとに帰る準備をしてもらいたいと思い、そのための手伝いをしなければという気持ちがありました。何をしたらよいか考えて、最初にし

ます。でも聖書は必要とする人に必要なメッセージを与えてくれると信じたからです。素直に「そうね」と受け取った姉は、まじめに読んでい

あり、その人だけが受けた召命だと思ふのですが、そのためのキーワードが私にとっては27編の4節なのです。きつと姉のためにも大きな力になると思つて

わたくしは信じます
命あるものの地で
主の恵みを見ることを。
主を待ち望め
雄々しくあれ、心を強くせよ。
主を待ち望め。

私が、言いたくても言えなかったことを聖書がはっきりと教えてくれました。亡くなった時、姉の聖書には27編のところ

御父が姉を「主の家に宿り主を仰ぎ望んで喜びを得る」ようにしてくださったと信じています。

読者の皆様へ

本号から毎月、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産登録に関するニュースなどを掲載します。「今のような状況なのか」ご理解いただければと思います。

長崎の教会群インフォメーションセンター

— 第1号 —

去る9月26日(土)～10月4日(日)まで、「国際記念物遺跡会議(イコモス)」現地調査が実施されました。調査員は、フィリピンの建築家ルネ・ルイス・S・マタ氏。教区本部からは、同職員の梅木氏が同行しました。今後、今回の調査結果を踏まえ、来年の5月頃には登録の可否をユネスコに勧告。7月に開催される第40回世界遺産委員会で登録の可否が決まることになります。「イコモスによる現地調査」という節目が無事終わりました。

主の平安

株式会社 五島式典社(斎場) 五島中央会館 五島留会館

代表取締役 ヨゼフ 浦 昭

24時間営業

五島市上津町 1385 番地 1 TEL (0959) 74-5551 FAX (0959) 74-5552

五島市奈留町浦 1899-1 TEL (0959) 64-3101 FAX (0959) 64-3102

ハマチ・タイ養殖、アジ・イワシ加工、中型旋網

エテルナ・ワコー(株)

代表取締役 ミカエル 溝口 晃

〒858-0926 佐世保市大湊町586

TEL (0956) 47-4380